

# 平成30年度 学校評価報告書

園名	三田市立松が丘幼稚園
----	------------

## 1 教育目標

「元気な子 心豊かな子 たくましい子」  
 自己を発揮し、のびのびと活動する子を育む  
 友だちと思いを伝え合い、心を通わせて遊ぶ子を育む  
 自ら考え、工夫し挑戦しようとする子を育む

## 2 今年度の重点目標

『自分らしさを発揮し、共に育ち合う子の育成』  
 ～幼児が自ら「おもしろそう！」「やってみよう！」「もっと！」と  
 心動かすような環境構成や援助の在り方を探る～  
 学年 4歳児 安心して自分の思いを出し、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。  
 5歳児 友達と思いを受け入れ合いながら、自分達で遊びや生活を進める楽しさを味わう。

## 3 総合的な自己評価

4, 5歳児が共に生活し、互いに思いやり、刺激し合えるかかわりの中で、5歳児は、昨年度の経験を生かして、自分達で考えながら進めていく活動を重視してきた。その中で、様々な考えを出し合い、自分達で決めたことを実現しようと、主体的に活動に取り組む姿が見られた。4歳児は、すぐ傍に真似したくなるような5歳児の姿があることで、自分もやってみたいという意欲につながり、できるようになる喜びを味わい、自己発揮する姿につながっている。また、クラスの友達と一緒に目的をもって取り組む活動を通して、力を合わせてやり遂げる達成感を味わうことができた。幼児の興味・関心に寄り添い、幼児を主体として遊びや生活を展開していくことにより、主体的・対話的な学びにつながっていくことが分かってきた。

## 4 総合的な学校関係者評価

年少の時に年長児に憧れ、見てきたことや教えてもらったこと、優しくしてもらったことが、年長になって生かされている。少しずつ自信をつけて、今では堂々とした姿を見せてくれる。友達とのかかわりの中で、できないことにも挑戦し、できるようになった時に、みんなで喜び合える関係性がとても良い。そのような仕組みがあって、一人一人の運動能力が上がっているのだと思われる。  
 教師が、幼児の遊びや経験を大切に捉え、幼児の興味を継続させていくための保育を工夫している。その中で、一人一人の思いをうまく引き出し、粘り強くかかわっていく姿がある。その積み重ねによる、2年間の幼稚園生活における幼児の成長は、大変すばらしいものである。

## 5 評価結果

自己評価		学校関係者評価		
分野・領域	評価項目(取組内容)	評価結果及び分析	改善の方策	学校関係者評価委員会の意見
教育課程	人とかかわりを通して、幼児が自ら心動かし、主体的、意欲的に活動する保育内容の充実 ・幼児が目標に向かって粘り強く挑戦しようとする力を育む保育内容の工夫 ・4, 5歳児が共に育ち合える交流の工夫 ・幼児一人一人の課題や発達する姿に応じた環境構成の工夫	・友達や教師との安定したかかわりを基盤に、幼児が自ら動き出す姿を捉え、個々の興味・関心を探りながら、保育内容の工夫に努めてきた。そのため、少人数クラスの中で、個々の思いが受け止められ、十分に自己発揮をする姿につながっていった。 ・4, 5歳児のかかわりを通して、4歳児の憧れの気持ちや、5歳児がよいモデルになろうとする姿を受け止め、互いに思いやり、刺激し合いながら、遊びや生活を展開することができた。 ・幼児一人一人の発達段階を丁寧に読み取り、職員間で共通理解を図りながら、支援方法を探っていくことができた。	・少人数の集団の中で、一人一人が力を発揮し、自分の事として考えていくことができる反面、多様な意見に触れる機会は少ないので、教師が十分に考慮しながら、保育内容を工夫していきたい。 ・今後も個々の幼児の発達の過程を大切にしながら、一人一人に応じたかかわりができるように教師間で連携を図っていきたい。	・少人数クラスの良さが生かされており、生活発表会においても、主体性や自己発揮する姿がよく見られた。園のテーマ“自ら心を動かして取り組む”ことができている。 ・一人一人への目が行き届き、子どもを急がせることなく、ゆっくりと待つ寄り添う先生の姿がある。その姿が5歳児の姿となり、4歳児への優しいかかわりが見られた。 ・友達同士で認め合える関係が築けていて、友達の頑張りやできるようになったことを一緒に喜び合う姿がとても良い。
	幼児が自ら体を動かして遊ぶための環境づくり ・幼児の様々な動き経験を意識した遊びの場づくりの工夫 ・芝生園庭を活用した遊びと園内環境の工夫	・日々のわくわく体操を重視し、丁寧に積み重ねていくことで、自分なりの目的をもって取り組む姿が見られるようになってきている。 ・チャレンジタイムとして、鉄棒や跳び箱、縄跳び等に挑戦する時間を設けることで、苦手意識のある幼児も取り組む機会となった。	・できるようになる喜びや楽しさは経験しやすいが、思うようにできない悔しさを十分に味わうことで、次への意欲につながっていくかかわりを大切にしていきたい。	・わくわく体操の継続により、力がついていることが分かる。運動会の取り組みでは、一人一人が頑張れる仕組みができており、自分で目標を決めて取り組む姿が良かった。
保護者・地域との連携	園運営及び園行事への保護者や地域住民の参画 ・地域住民との交流、連携の推進(老人会、ふれあいサロン等) ・保護者の芝刈り支援や、PTA活動を通して、保護者同士や園とのつながりを深め、幼稚園教育への理解・協力を図る ・絵本に親子で親しむことができる読み聞かせ活動の工夫	・幼児が地域に足を運ぶ「ふれあいサロン」では、伝承遊び等を通して温かい交流ができ、様々な人とかかわりを楽しむことができた。また、地域の方のご好意があり、季節の自然に触れる経験を味わうことができた。 ・PTA活動の一部見直したことで、保護者の方の負担を軽減することができた。 ・毎週金曜日を絵本の貸し出し日とし、絵本の部屋を開放したことで、親子で絵本を選ぶ機会となり、貸し出し数も増加している。	・地域の方を園に招待する交流では、地域の方への負担もあったため、内容を見直す必要がある。 ・絵本の貸し出し日は定着しているため、絵本の並べ方や整理の仕方などを工夫していきたい。	・地域の方は、お孫さんに会う感覚で、幼稚園児との触れ合いを楽しみにされている。あまり負担には感じていないと思うので、機会を大切にしてほしい。 ・幼少期に親子で絵本に触れ合うことは大切であるので、曜日を決めて開放するのはとても良いと思う。 ・今年度は、役員だけでなく、全員参加のPTA活動ができて良かった。
子育て支援	子育て支援推進事業、子育て支援型預かり保育の推進と充実 ・2, 3歳児ブレ保育や園庭開放など、親と子の育ちとつながりの場となる内容の工夫 ・家庭的な雰囲気の中でゆったりと生活ができる預かり保育内容の工夫	・2, 3歳児対象のプレ幼稚園では、親子共に集団の雰囲気を楽しむことができ、家ではできない経験を楽しむことができた。また、子育てで不安に感じていることを、職員に相談することで、安心される方も多かった。 ・預かり保育指導員との信頼関係のもと、それぞれのやりたい遊びや製作等、ゆったりとした空間の中で過ごすことができています。	・子育て支援事業のお知らせを地域に発信する回数を増やし、幼児期にしっかり子どもと向き合うことの大切さを伝えていきたい。 ・預かり保育の内容を見直し、地域を活用した内容を取り入れていきたい。	・子どもが少なく、公園に行っても友達がいないう状況なので、園庭を公園代わりに使ってもらえるのも良いだろう。 ・プレ幼稚園は、未就園児の母親にとって、同世代の母親や先生と話をすることができるので、大切な機会になっている。
異校種間の連携	幼小の接続と学びの連続性を見据えた取り組みの推進 ・互恵性のあるかかわりがもてる、八景中校区の幼・小・中交流の工夫 ・幼小の円滑な接続をめざした交流・連携の推進	・小学校との連携では、就学を見通した交流ができるように計画している。幼児・児童の交流が定着してきており、どちらにとってもよりよい育ちが得られた。 ・職員間での連携・情報交換を計画的に進めることで、スムーズな交流の進行ができ、幼児・児童の互恵性のあるかかわりをもつことができた。	・引き続き、松が丘小学校との連携を図りながら、就学後の姿を見通してかかわれるような取り組みを進めていきたい。	・幼稚園と小学校が隣接しているからこそ、できる取り組みである。ペアになって交流することで“自分のペアの子”への思い入れが強くなり、深いかかわりができたようである。 ・兼任園長になり、幼小の連携がスムーズにとれていると思う。安心して小学校へ送ることができる。